

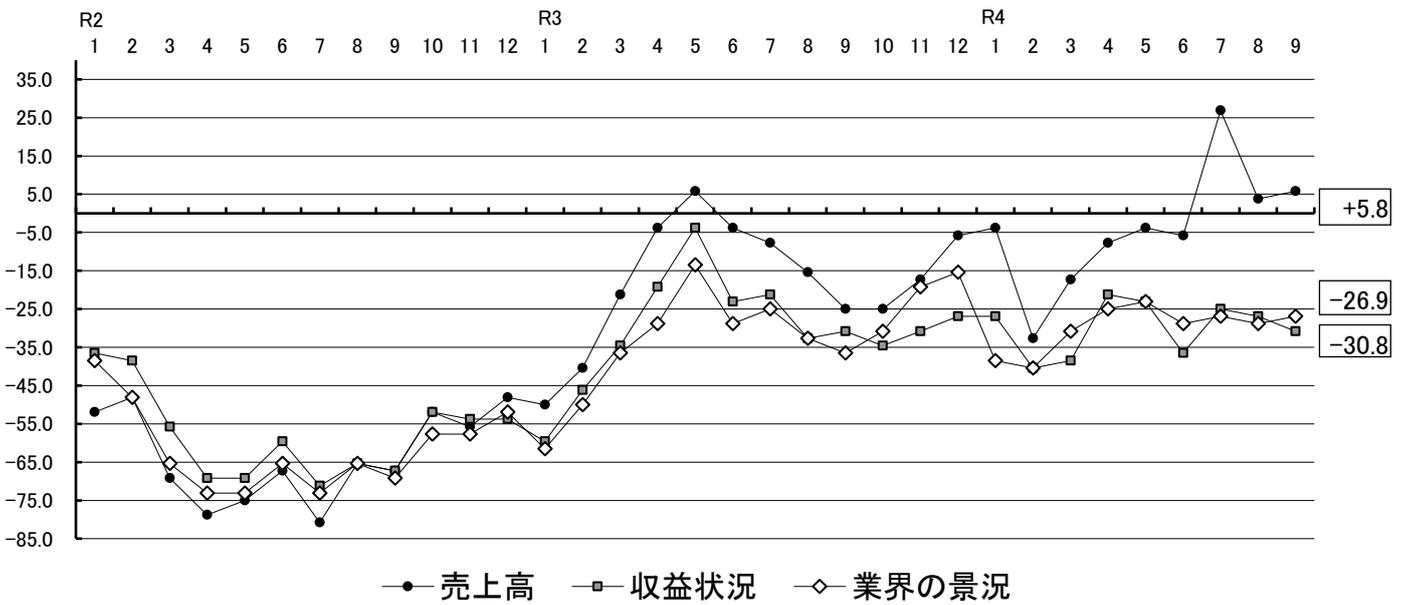
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和4年9月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は収益状況のみ下降し、売上高と景況はわずかに上昇した。
- 製造業で「一般機器」「鉄鋼・金属」、非製造業で「小売業(飲食業含む)」が依然として厳しい。
- 原材料・燃料費等の高騰、部品不足、人手不足などの問題が長期化しており、先行きが見えない状況である。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	+5.8	+1.9	+2.5	+6.6
収益状況	-30.8	-3.8	-30.8	+1.2
業界の景況	-26.9	+1.9	-25.0	+2.6

### 売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より1.9ポイント上昇し、+5.8ポイントとなった。全国においては、前月より6.6ポイント上昇し、+2.5ポイントとなった。

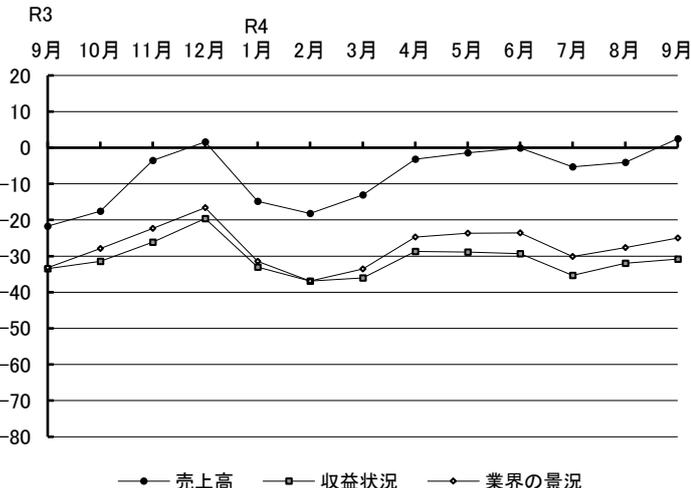
### 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より3.8ポイント下降し、-30.8ポイントとなった。全国においては、前月より1.2ポイント上昇し、-30.8ポイントとなった。

### 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より1.9ポイント上昇し、-26.9ポイントとなった。全国においては、前月より2.6ポイント上昇し、-25.0ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

9月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中4指標が下降した。主要3指標は「売上高」は1.9ポイント上昇、「収益状況」は3.8ポイント下降、「業界の景況」が1.9ポイント上昇となった。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「一般機器」が下降し厳しい。売上高は、前月同様であるが相変わらず半導体不足の影響や仕入資材の高騰、人手不足が改善しておらず引き続き厳しい経営状態が続いている。「木材・木製品」においては、売上は増加傾向であるが原材料やエネルギー価格の高騰により製造原価が上昇しており、販売価格への転嫁が十分に出来ず、景況感は総じて悪化傾向にある。非製造業においては、「小売業(飲食業含む)」で円安、仕入れ価格の高騰等により依然としてマイナス状態が続いている。

当月は、前月同様の水準であったが、原材料・燃料費等高値の状態が続いており、未だ価格転嫁ができていないとの報告が寄せられている。また、一部製造業では人手不足や半導体不足などの影響から、減産や生産計画変更をするなど苦しい様相がみられることから、今後も先行きが見えない状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	75.0	25.0	50.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0
繊維・同製品	50.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0
木材・木製品	50.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	25.0	25.0	-50.0
印刷	100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
窯業・土石	-50.0	-25.0	50.0	-25.0	-50.0	0.0	-50.0	25.0	-25.0
鉄鋼・金属	0.0	-25.0	75.0	-25.0	-25.0	-50.0	-50.0	-25.0	-50.0
一般機器	0.0	-25.0	25.0	-25.0	-75.0	-50.0	-25.0	0.0	-50.0
製造業	24.0	-12.0	36.0	-16.0	-36.0	-24.0	-12.0	0.0	-36.0
卸売業	66.7	-33.3	66.7	33.3	33.3	0.0		0.0	33.3
小売業	-57.1	-14.3	14.3	-42.9	-57.1	-42.9		0.0	-57.1
サービス業	0.0		50.0	-16.7	-16.7	-16.7		-16.7	0.0
建設業	-20.0		20.0	0.0	-40.0	-20.0		0.0	-20.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	-25.0	0.0		0.0	-25.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-11.1	-20.0	25.9	-11.1	-25.9	-18.5		-3.7	-18.5
全体	5.8	-14.3	30.8	-13.5	-30.8	-21.2	-12.0	-1.9	-26.9

図表2 【指標別DI値の推移】

	3年 9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比
売上高	-25.0	-25.0	-17.3	-5.8	-3.8	-32.7	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	26.9	3.8	5.8	1.9
在庫数量	-25.7	-8.6	-8.6	-20.0	-5.7	-8.6	-20.0	-17.1	-14.3	-5.7	-11.4	-5.7	-14.3	-8.6
販売価格	-3.8	3.8	5.8	11.5	9.6	15.4	21.2	25.0	25.0	23.1	32.7	30.8	30.8	0.0
取引条件	-17.3	-11.5	-17.3	-9.6	-5.8	-5.8	-7.7	-7.7	-9.6	-9.6	-9.6	-9.6	-13.5	-3.8
収益状況	-30.8	-34.6	-30.8	-26.9	-26.9	-40.4	-38.5	-21.2	-23.1	-36.5	-25.0	-26.9	-30.8	-3.8
資金繰り	-23.1	-21.2	-15.4	-13.5	-15.4	-26.9	-21.2	-13.5	-11.5	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	3.8
設備操業度	0.0	-8.0	-16.0	-4.0	-8.0	-28.0	-12.0	-20.0	-16.0	-20.0	4.0	-12.0	-12.0	0.0
雇用人員	-5.8	-15.4	-9.6	-7.7	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-13.5	-13.5	-3.8	0.0	-1.9	-1.9
業界の景況	-36.5	-30.8	-19.2	-15.4	-38.5	-40.4	-30.8	-25.0	-23.1	-28.8	-26.9	-28.8	-26.9	1.9

## 特記事項

### 情報連絡員報告（令和4年9月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	全体的に物価の高騰による、消費の動向が心配である。また、記録的な円安による影響もどうなっていくか注視していく。
	酒類製造業	ガソリンをはじめとする様々な値上げに対応しきれず、アルコール業界も値上げに踏み切る蔵が出てきている。収穫が始まった酒造好適米の品質も良く、今年も良いお酒が醸される事を期待している。
繊維工業	縫製業	受注数は去年より安定しており順調だが、コロナにより海外からの実習生の入国がストップしていたので、ほとんどの企業で帰国してしまい新しい実習生の確保が急務である。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	今月も売上自体は比較的堅調に推移。数字上はコロナ前の水準である。春物サンプルの第一弾がひと段落したが、ここ数年の中では割と活況だった印象で11月以降もある程度期待できる感触。
木材・木製品	一般製材業	住宅着工数の減少により、外国産材が溢れている状態である。当該事項に付随して合板材などの生産調整を懸念している。
	家具・建具製造業	売上については増加基調の先も見られるが、減少回答も散見され企業間に格差が出ている。原材料やエネルギー価格の高騰により製造原価は上昇しているが、販売価格への転嫁が十分に出来ず、景況感は総じて悪化傾向にある。売上増加により主に製造現場での人員を増加したいところであるが、思ったような人材確保が困難であり、「人手不足」が大きな経営上の課題となっている。
印刷	印刷業	用紙代が本年既に2回値上がり（各15%）しているが、先行きはまだ上昇する可能性がある。価格転嫁しているが追いつかず、収益は悪化している。
窯業・土石製品	陶磁器・同関連製品製造業	工場の老朽化により、修繕費の割合が増えている。陶器市が近づいたため、業界への原料売上が伸びているが、値段高騰（原料代）のため県外発送分の売上が落ちている。観光客は増加傾向にあるが、小売店の売上は伸び悩んでいる。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車関連は、当月も依然として半導体不足やコロナウイルス感染の影響から休業が相次ぎ減産や生産計画変更など不安定な状況が続いている。円安による影響を受けて商品を輸入から国内シフトにするも、価格が合わず失注するケースも出ている。様々な商品の値上がりを受けても価格転嫁が進んでいないのが現状である。市内においては、老舗スーパーの倒産、飲食店の相次ぐ閉店、市内タクシーの営業も0時で閉まるなど厳しい経営環境が浮き彫りになってきている。
	金属製品製造業	材料費（有償支給）の増加分を販売価格に上乗せできたことや昨年9月になかった、金型の売上が今年はあったため売上が増加した。
一般機器	一般機械器具製造業	電気料金の燃料調整単価が昨年同月と比較して8.76円/kwh上昇。（2021年9月△2.49円/kwh→2022年9月6.27円/kwh）これが電気料金に大きくのしかかっている。今後も上昇が続くと予想され、大きな懸念材料となっている。
	一般機械器具製造業	前年同月と比較し、売上高は全般的に増加傾向であるものの、一方では減少した企業も出てきている。販売価格は不変という状況であった。仕入れ資材の状況は引き続き高値が続いている。操業度（稼働）はほぼ前年同様、収益状況はやや悪化企業が多くなってきている。人手不足の懸念がある企業もあるが、従業員の減少した企業もある。今後の新型コロナウイルスの感染状況やロシアによるウクライナ侵攻による化石燃料の上昇や物価上昇といった懸念材料が多々あるが、政府の経済対策を注視し今後の動向に対応していく。

	一般機械器具製造業	建設業は好況状態だが、製造業は相変わらず半導体不足の影響が改善していない。介護業界は人手不足が続き順調ではない。
卸売業	化粧品卸売業	世間で騒がれているほど、値上げの影響はないが、梱包資材等に若干値上げの兆候が見られる。
	各種商品卸売業	一部業種を除き全体として売上高、業況等は前年同期に比べ好転となっているが、仕入単価上昇の影響により利益率は減少とする企業も多い。
小売業	食肉小売業	円安とオーストラリアの干ばつの影響で、仕入れ価格が高騰しているが、値上げが追いつかない状況。
	中古自動車小売業	新車の供給不足での中古車高騰は続いている。仕入が困難で下取・買取は利益が出るが、物が少なく販売減が相対的に利益で圧迫している。
	各種商品小売業	前年同月は、緊急事態宣言が出されていたにもかかわらず、今年も前年同等の売上に落ち込んでしまった。サービス系業種は回復基調にあるが、他業種は低空飛行が続いた状態である。とにかく全体としての売上を図りたい。
サービス業	自動車整備業	資金繰りの状況が悪化し長期売掛金増加、諸費用立替の増加が原因として挙げられる。
	旅館・ホテル	国体事前競技が開催され、宿泊稼働率は非常に高くなった。学会等のコンベンションはハイブリッド開催が主なので、人数は期待できない。スポーツコンベンションはリアル開催のみなのでwithコロナで誘致すべきコンベンションは明確である。(宴会)新型コロナウイルス感染拡大により100%ダウン。(飲食店)第7波の感染拡大により飲食店を控える傾向が非常に強い状況となっている。
	給食センター	給食業界全般は、食材価格の上昇およびガス、電気等光熱費の大幅な引き上げに苦しい状況に立たされている。7月から9月にかけて弁当価格の値上げを喫食者へ打診。
建設業	総合工事業	生コンの取引価格が実質的に値上げされた。また、資材の高騰により長期に亘る工事などではスライドの対象となる案件がある。
	職別工事業	受注は前年同月並みであるが原材料費などが上昇傾向にあるため、収益を圧迫している。10月以降も上昇傾向でさらに収益は圧迫されるものと思われる。
運輸業	貨物自動車運送業	輸出向けアルミ製品の増加が見られる。また、小口の配送なども多くなっているが、燃料費等の値上がりなどで、利益が圧縮し収益は思うように上がらない。ドライバー不足も慢性的でありドライバーの高齢化が進んでいる。
	貨物軽自動車運送業	8月の勢いが、9月は続かず、決算期をむかえる企業からの依頼も例年に比べると減少した。シルバーウィーク前と後は多少混み具合もあったが、全体的にはトーンダウンした感じに落ち着いてしまった。